

ジョイス、オコナー、ツルゲーネフ、チェーホフに連なる

世界最高の短篇作家として愛読され、日本でも近年ようやく

「発見」されて絶賛を浴びるようになった

アイルランドの作家、ウィリアム・トレヴァー。

〈書くものすべてが傑作〉(若島正)である天性のストーリーテラーの  
初期・最新長篇、短篇コレクション、中篇作をそろえて  
豊饒にして圧倒的な物語世界が堪能できる

本邦初の選集がついに刊行開始!



photo:Snowdon

## ウィリアム・トレヴァー

William Trevor

1928年、アイルランドのコーク州生まれ。トリニティ・カレッジ・ダブリンを卒業後、教師、彫刻家、コピーライターなどを経て、60年代より本格的な作家活動に入る。65年、第二作『同窓』がホーソンデン賞を受賞、以後すぐれた長篇・短篇を次々に発表し、数多くの賞を受賞している(ホイットブレッド賞は3回)。短篇の評価はきわめて高く、初期からの短篇集7冊を合せた短篇全集(1992年)はベストセラー。現役の最高の短篇作家と称され、ノーベル文学賞候補にも名前が挙がる。長篇作に『フルズ・オブ・フォーチュン』(論創社)『フェリシアの旅』(角川文庫)、短篇集に『聖母の贈り物』『アイルランド・ストーリーズ』(共に小社刊)『密会』(新潮社)『アフター・レイン』(彩流社)などがある。英国デヴォン州在住。

体裁：四六判変型・上製ハードカバー 各巻約300～360頁  
平均予価：2400円  
装画：ヴィルヘルム・ハンマースホイ 装幀：中島かほる

第1回配本「恋と夏」2015年5月刊行予定  
(以降年に2巻刊行予定)

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15

<http://www.kokusho.co.jp> e-mail: [sales@kokusho.co.jp](mailto:sales@kokusho.co.jp)

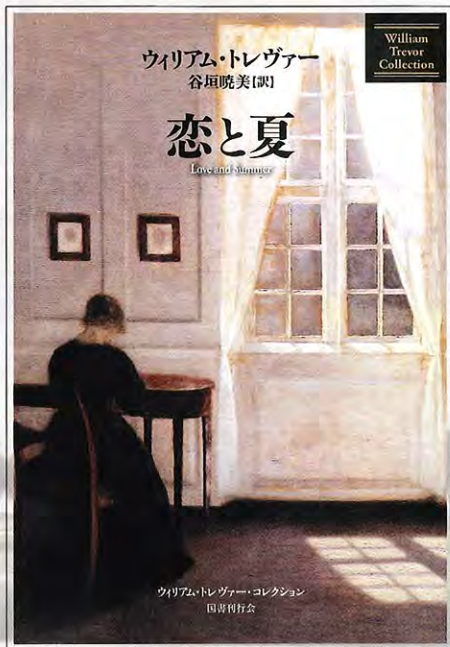
# ウィリアム・トレヴァー・コレクション

# 恋と夏

Love and Summer  
(2009)

谷垣曉美訳

二十世紀半ばのアイランドの田舎町ラスモイ、修道院で育てられた孤児の娘エリーは、事故で妻子を失ったやもめの男の農場で働き始め、恋愛をひとつも知らないまま彼の妻となる。そして、ある夏一人の青年フロリアンと出会い、恋に落ちる——究極的にシンプルなラブ・ストーリーが名匠トレヴァーの手にかければ魔法のように極上の物語に変貌する。登場人物たちの現在と過去が錯綜し、やがて人々と町の歴史の秘められた「光と影」が浮かび上がり……トレヴァー八十一歳の作、現時点での最新長篇。



## 異国の出来事

Selected Short Stories Vol.3

榎木伸明訳

トレヴァーの母国であるアイランドが舞台の短篇のみ集めた『アイランド・ストーリーズ』に続いて、アイランド以外の国々で展開する短篇を集めた日本オリジナル編集ベスト・コレクション第三弾。一人の青年を愛した二人の少女が三十年後シエナの大堂で再会する「娘ふたり」、ベニスへ行くはずがスイスに着いてしまった貧乏な夫婦の旅は同居している老人がしくんだ異かもしれない「三つどもえ」など、様々な異国での驚くべき人生模様が描かれる全十二篇。

## ふたつの人生

Two Lives (1990)

榎木伸明訳

施設に収容されたメアリー・ルイズの耳には、今もツルゲーネフを朗読する青年の声が聞こえている……夫がいながら生涯いとこの青年を愛し続けた女の物語「ツルゲーネフを読む声」、ミラノへ向かう列車内で爆弾テロに遭った女性作家デラハンティは同じ被害者の老人と青年と娘をウンブリアの自宅に招き共同生活を始める……心の傷を癒そうとするひとびとの物語「ウンブリアのわたしの家」、共に五十代の女性を主人公にしたトレヴァーの熟達の語りが重厚な味わいをもたらす絶品品の中文作一篇。

## 『聖母の贈り物』榎木伸明訳



圧倒的な描写力と抑制された語り口で、運命にあらがえない人々の姿を鮮やかに映し出す珠玉の短篇、全12篇。知られざる名匠トレヴァーの名を一躍轟かせた初のベスト・コレクション。定価：本体2400円＋税

## ディンマスの子供たち

The Children of Dynmouth (1976)

宮脇孝雄訳

ダブリンの港町ディンマスに住む十五歳の孤独な少年テイモシーは町の「人気者」だ。あらゆる葬式に顔を出し、道行く人々みんなに挨拶をし、無邪気な笑顔をふりまわしかし、やがて町の大人たちは知ることになる、この無垢な少年が大人の事情を暴きだし町を大混乱に陥れることを——トレヴァー流のブラック・コメディが炸裂することを一九七六年の傑作長篇(ホイットブレット賞受賞)。

## オニールズ・ホテルにて

Mrs Eckdorf in O'Neill's Hotel (1969)

森慎一郎訳

かつては千客万来の賑わいを見せたダブリンのオニールズ・ホテルはなぜ薄汚いかがわしい館になってしまったのか？ プロの女性写真家アイヴィ・エックドルフはその謎の背後に潜むドラマを解き明かすべくホテルを訪れた。ホテルに暮らすのはオナーの九十一歳の聾啞の老婦人、飲んだくれの息子、そして夢見がちな古参のボーター。その他ホテルを取り巻く奇妙な人々をアイヴィはカメラに収めていく……トレヴァー初期の代表長篇(ブッカー賞候補)。

## 『アイランド・ストーリーズ』榎木伸明訳



稀代のストーリーテラーが優しく、そして残酷にえぐりとる、島国を生きる人々の人生模様……アイランドを舞台にした作品をあつめたベスト・コレクション第二弾(全12篇)。定価：本体2400円＋税